

Monthly Report

Vol.44 広報室

平成22年1月29日発行

目次:

小室希さん(院2年) 冬季五輪出場決定	1
龍仁大学と国際交流 協定締結	2
岩手・宮城内陸地震 の被災者義援金	3
楽天選手が本学で低 酸素トレーニング	4
S&Cワークショップ	5
130周年企画展	6
学生・サークル関連	7
明成バスケ部全国制 覇	10

小室希さん(大学院2年)がバンクーバーオリンピック 日本代表決定



小室 希選手(大学院2年)が、今年2月にカナダで開かれるバンクーバーオリンピック女子スkeleton日本代表に決定しました。

小室さんは本学入学と同時にスkeleton競技をはじめ、偉大な先輩方に続けとトレーニングを重ねて大学3年からW杯に参戦、同シーズンの全日本選手権を制しています。

今シーズンも全日本選手権を3年ぶりに制し、W杯でも第7戦で自己最高成績の11位に入るなど調子を上げています。本番のバンクーバーでは大舞台に強い小室さんの活躍に是非ご期待ください。

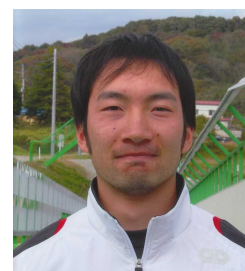
バンクーバーオリンピックには、同窓生の越和宏選手(所属:システック)、鈴木寛選手(所属:マネックス証券)、土井川真二選手(所属:日本レストランシステム)も代表に決定しました。



こし かずひろ
越 和宏選手
仙台大学17回生
スkeleton
五輪3度目の出場



すずき ひろし
鈴木 寛選手
仙台大学26回生
ボブスレー
五輪4度目の出場



どいわ しんじ
土井川真二選手
仙台大学32回生
ボブスレー
五輪2度目の出場

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

また、本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

バンクーバー五輪出場の小室 希さん・越 和宏さん・鈴木寛さん・土井川真二さんへの応援メッセージをお寄せください

仙台大学HPから、現役オリンピック選手となった小室さん、本学OBの越さん、鈴木さん、土井川さんへのメッセージを募集しています。

仙台大学から熱いメッセージを是非送りましょう!
<http://www.sendaidaigaku.jp/event/olinpic.html>

Monthly Report 1

ヨンイン

韓国龍仁大学と国際交流協定締結



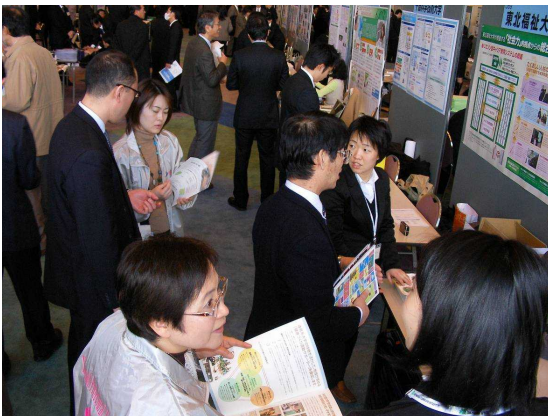
1月21日に龍仁大学（韓国）から金正幸（キムジョンヘン）総長をはじめ6名が来学し、調印式、施設見学を行いました。調印式では、金総長と朴澤学長が両大学間の国際交流に関する協定書に調印をし、研究分野での教員間交流、交換留学、共同事業等について話しあわれました。

瀋陽師範大学が来学



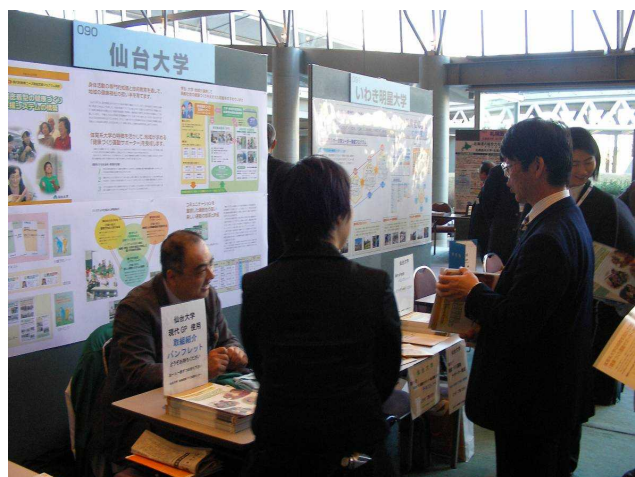
1月27日（水）に平成20年5月から国際交流協定を締結している瀋陽師範大学（中国）から、夏敏（シャーミン）副学長をはじめ4名が来学し、両大学の今後の国際交流についての協議及び施設見学を行いました。

文科省主催：大学教育改革プログラム合同フォーラムへ出展



写真提供：地域健康づくり支援センター

1月7、8日に文部科学省主催の「平成21年度大学教育改革プログラム合同フォーラム」が東京ビックサイトで開催され、教育改革を目的に選定された国公立大学の取組みが一堂に会しました。本学の現代GP『地域密着型の健康づくり支援システムの構築』もポスターセッションのブースを設けました。質問も多く、関係教員・新助手が他大学の関係者等と積極的な意見交換を行いました。また、他大学の取組を見ることが出来たことは、新たなGP獲得に向けて貴重な情報収集の場となりました。



栗原市長へ 仙台大学から岩手・宮城内陸地震の被災者義援金



栗原市長へ義援金を手渡し

仙台大学ボランティアセンターは、社会貢献活動の一環として、昨年に引き続き、去る11月の‘大学祭・スポーツフェスティバルin柴田’において 岩手・宮城内陸地震の被災者の方々を支援する目的でチャリティーバザーを行いました。教職員や学生、また、地域の方々の多くの協力を得て大盛況となりました。チャリティーバザーの売上金は募金と合わせ101,556円、これを仙台大学義援金として、栗原市の佐藤 勇市長へお渡ししてまいりました。

後日、栗原市よりお礼状が届きましたので、皆様にご報告と感謝のお礼を申し上げます。

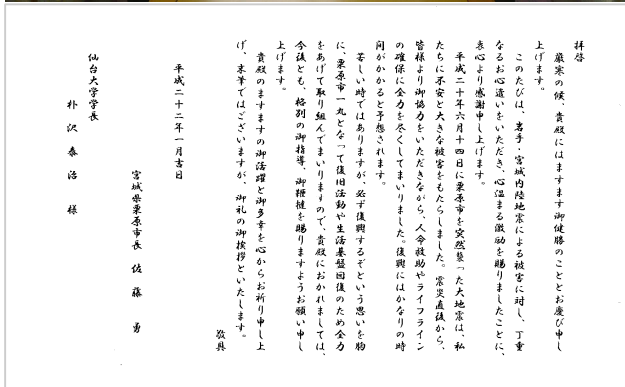
被災地は、ハード面の復旧は少しずつ進んでいますが、個人の生活再建のめどにまで至っていない、心のケアが必要との事で、継続した大学の支援に大変感謝していますとの事でした。

ボランティアセンターは今後も、災害に向けた支援活動を継続していきたいと思っております。

ご支援くださいました皆様、ありがとうございました。

今後とも、ご協力をお願いします。

仙台大学 ボランティアセンター
大山 さく子 庄子幸恵



エコキャップ活動に賛同 学生の皆さんありがとう

～ クリスマスの こころ温まるちょっとしたニュース ～



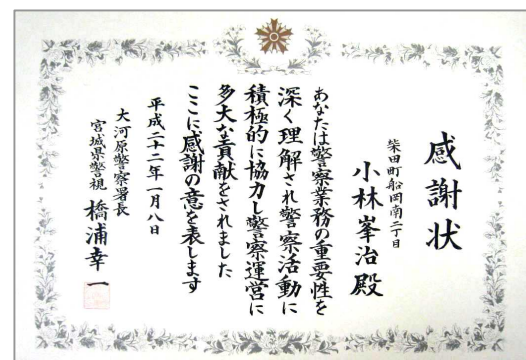
12月24日、KMCH(クラブハウス)の「エコキャップ協力ボックス」の場所に、柴田町指定のゴミ袋に一杯のキャップが置かれていました。これまでもレジ袋に入ったキャップがボックスの中に入っていたことが何度もあったそうですが、これだけの数のキャップが置かれていたことは初めての事。集めてくれた学生の行動に嬉しさと驚きを感じています。

どの学生、サークルなのか?と心当たりを思い浮かべるも、この運動の趣旨を理解している学生が少なくないことを改めて認識させられた出来事です。

大河原警察署から感謝状

本学では学生課が中心となり、学生が放置した自転車を軽トラックに載せて大学に持ち帰る活動や、他人の敷地内や駐車禁止区域への駐車・駐輪の対応、また全学をあげての春と秋の交通安全運動を行っています。

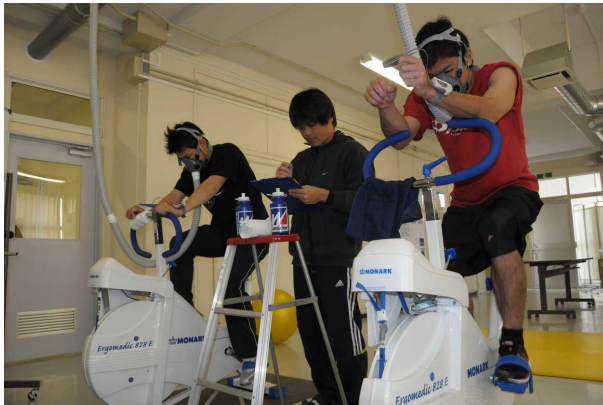
この地道な活動が認められ、仙台大学の代表として学生課の小林職員が大河原警察署より感謝状をいただきました。



かわぎし つよし

にしむら わたる

楽天野球団の川岸 強選手と西村 弥選手が本学で低酸素トレーニング



東北楽天ゴールデンイーグルスの川岸 強選手が1月21 - 27日に、西村 弥選手が1月11 - 15日と26 - 28日にかけて、本学の常圧低酸素室を利用して低酸素トレーニングを行いました。

プロ野球選手が低酸素トレーニングを取り入れるのは珍しいことであり、このトレーニングは、血液の酸素運搬能力の向上や筋肉の酸素消費能力を改善し、基礎体力を向上させる効果が期待できます。

両選手は 標高2500メートルと同等の酸素濃度（約15.4%）に制御された低酸素室に宿泊、次の日の午前中に低酸素状態の中でエルゴメータを用いたトレーニングを行い、動脈血の酸素飽和度や心拍数などのデータを測定、午後はクリネックススタジアムでトレーニングというサイクルで行いました。

今回のトレーニングに至ったのは、川岸、西村両選手が愛用しているハーフスパッツがGANBAX社の製品であり、その研究に高橋弘彦教授と内丸 仁講師が携わっていることが縁となり実現に至りました。

両選手とも低酸素トレーニングの効果は体で感じているようで、川岸選手は「キャンプ中盤にな

ると疲れが溜まってきて、だるくなるのですが、今はそれ以上のだるさです。この低酸素トレーニングを導入したことで基礎体力が向上し、キャンプでその効果が表れる事を確信しています。今後もオフシーズンには先生方の協力を得て、またお世話になりたいです。」と話し、西村選手は「1回目の低酸素トレーニングの後に沖縄合宿に行きましたが、体がものすごく軽く感じてよく動け、低酸素トレーニングの効果を実感しました。高橋先生や内丸先生からは専門的な話が聞けるので、アドバイスを受けながら今後も低酸素トレーニングを取り入れて行きたいです。」と話しており、二人とも納得のいくトレーニングとなったようです。

なお、川岸選手はトレーニングや測定に連日協力してくれた学生達に感謝の意を表し、4月のKスタでの試合に皆さんを御招待くださるそうです。

さらに今回は、高橋教授と内丸講師がGANBAX社と共同で新しく開発したトレーニング用と就寝用のロングスパッツが両選手に手渡されました。

（東北楽天ゴールデンイーグルスHPより）

川岸 強選手



投手

右投げ右打ち

出身:神奈川県

背番号51

桐蔭学園高校 駒沢大 トヨタ自動車

04中日 07楽天

30才

西村 弥選手



内野手

右投げ両打ち

背番号66

沖縄県出身

沖縄尚学高校 東京情報大学 06ドラフト

26才

第1回仙台大学S & Cワークショップについて

平成22年1月9日と10日に「第1回仙台大学S&Cワークショップ」を開催した。

講師は米国ニュージャージーから「子供とスポーツトレーニング」の世界的権威Faigenbaum博士を招聘し、9日には「子供とストレングストレーニング：運動回数よりも大事なもの」、「コーチのための1ダースのアイデア：FUNダメンタル基礎知識」の2つの講義を、10日には「子供とメディシンボールトレーニング」、「プライオでプレイ」の2つの実技を行った。

参加者は仙台大学生に加え、外部からはNSCAジャパン会員、大学近隣の専門家などの参加があり、講義には200名以上、実技にも150名ほどの参加者があった。

Faigenbaum博士は子供とトレーニングの研究では世界をリードする科学者で、現在は米国ニュージャージーのThe College of New Jerseyにて教鞭をとられている。大学での指導のほかにも、近隣の学校にて子供を対象に運動トレーニングを実践しており、博士の地元地域のみならず、米国全土の体育授業内容改善に大いに貢献をされている。また彼の研究内容は世界中で注目を受け、毎年数カ国の専門団体から招待を受けて講義をされている。



今回のワークショップのメインピックも彼の専門である「子供とスポーツトレーニング」に関するもので、東北唯一の体育大学で、将来は体育教員や運動指導員を目指す学生の多い本学において「第1回仙台大学S&Cワークショップ」には最適の講師であった。

講義に対する受講者の反応もよく、若い人体のスポーツトレーニングに対する反応の特殊性、今までタブーと見受けられていた「子供とウェイトトレーニング」のポジティブな関連性、そして大人よりも繊細な体を持つ子供に「正しい」運動プログラムを与える重要性など、受講者が持つ既存の知識や経験にとって「改革的」な授業内容となった。



講師のFaigenbaum博士も仙台大学での講義を大変楽しみ、そして手ごたえのあるものと感じてくださったようで、「今回のワークショップを経て、1人でも多くの人々が真剣に『子供とスポーツトレーニング』に取り組み、実践してくれるれば、このワークショップは成功で、もしその中で1人でも将来私と同じ研究者を目指す人材が出てくれば、このワークショップは大成功だ」と話された。

今回のS&Cワークショップは本学にとっても、そして私にとっても初めての経験であり、様々な本学内外関係者にご迷惑をおかけしつつ、このイベントの準備を行った。

それらの方々に対しては、この場を借りて心からお礼を申し上げたい。

準備段階、また開催中においても、いくつかの問題が発生し、どうにかやりぬいた感があるのも否めないため、もし来年度以降も継続することが可能であるならば、今年の経験を踏まえ、よりよいイベントにできるようにしたい。

< 情報提供：新助手 加賀洋平 >



朴沢学園創立130周年記念 企画展・開放講座

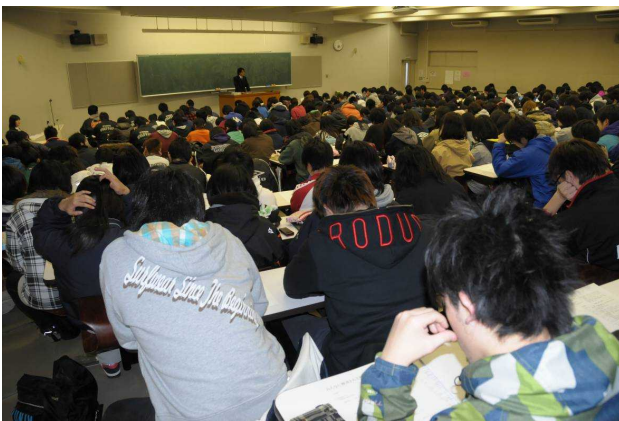


1月5～7日に東京エレクトロンホール宮城を会場に「朴沢学園創立130周年記念企画展・開放講座」が開催され、公文書資料・明治時代の教材・卒業作品の展示及び客員教授の伊達宗弘先生

による講座が4回にわたって行われました。企画展に144名、開放講座には167名の来場を頂き、歴史ある資料を懐かしげに見ている来場者の姿がありました。



教育実習前指導でOBから在校生へアドバイス



1月14日(木)にB300教室において「教育実習前指導」OB講演会が開催され、教員免許取得を目指す3年生約300名が参加しました。「教育実習前指導」は、教育実習に挑む在校生に対して、現役教員として活躍しているOBから、教育実習で気をつける点や、気構えなどを指導してもらうもので、毎年開催されています。

今年も、岩沼市立岩沼北中学校の安宅康晴先生

(平成17年度体育学科卒)と、石巻市立相川小学校の養護教諭の大坪奈央先生(平成19年度健康福祉学科卒)を招いて、在校生にアドバイスしていただきました。

安宅先生からは大事な3つのポイントとして「50分という限られた授業時間で生徒に何を伝え教えたいかを何度もイメージすること」、「指導教官の授業を参観して、生徒の注目を引くテクニックや指導のポイントを学び取ること」、「生徒と年齢に近いが、教員としての自覚を持って行動すること」と話し、「勉強させていただいている」という気構えで教育実習に望んで欲しい」とのアドバイスがありました。聴講した学生達は教員という目標に向かって、意識を高めたようでした。

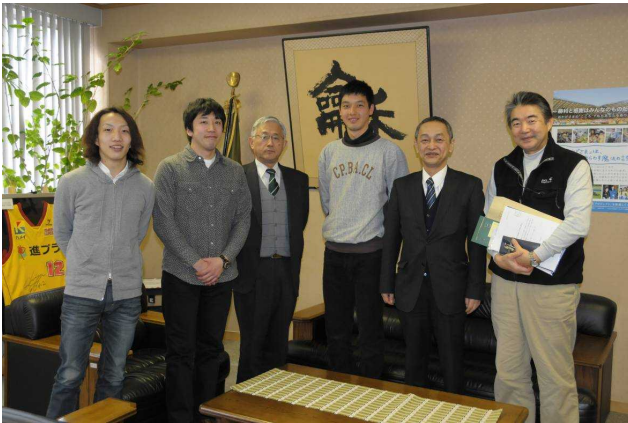


シニアカレッジ閉講式



12月26日(土)に平成21年度シニアカレッジ閉講式が開催され、朴澤学長から受講生一人一人に認定証が授与されました。今年度は「地域スポーツ指導者コース」と「介護予防指導者コース」の2講座を開講し、延べ18名が認定を受けました。認定者は今後、地域でのスポーツ・介護指導の活躍が期待されます。

国費留学生一時帰国 ～学長・事務局長へ近況報告～



中国に国費留学生3名が冬休みを利用して一時帰国し、1月26日(火)に朴澤学長、佐々木事務局長に元気な姿を見せに来てくれました。

訪れたのは東北師範大学の日野晃希さんと金井弘順さん、上海体育学院の笹井善仁さんです。

近況を伝えるメッセージを頂きましたので紹介します。

日野晃希さん（東北師範大学大学院1年）

「1年半という折り返し地点なので、更に充実した留学生活を送ることができるよう楽しみながら頑張ります。まだ慣れない大学院生活です。クラスメートとコミュニケーションを取ることができるよう、3月から頑張ります。」

笹井善仁さん（上海体育学院大学院1年）

「1年半過ぎて大学院の授業に入り、辞書にはない専門用語に困っています。修士論文もスタートしたので、読み・書き・会話を一段と楽しく頑張ります。」

金井弘順さん（東北師範大学2年）

「中国の言葉や文化にだいぶ慣れ、授業内容も理解できる部分が増え、毎日の生活を楽しめるようになってきました。来学期からは新しい事にもチャレンジし、仙台大学の単位取得にも力を入れたいと思います。」

ハワイ語学研修参加学生に奨学金



1月13日(水)に昨年8月にハワイ州立大学第1回語学研修(「NICE」プログラム)に参加し

た山口有映さん(体育学科2年)、安部翔子さん

(体育学科1年)、高橋悠さん(スポーツ情報メディア学科2年)に、朴澤学長から奨学金が手渡されました。これは、学生達があらかじめ学内で決まったルールに基づき審議した結果、ある一定以上の生成績を修め、ハワイ州立大学で取得した単位を本学の単位と振り替えられることが決まったことから、すでに支払っていた講義料の一部が返還されたものです。

高橋さんは3月から3週間、カヤニ応用科学大学への短期留学が決まっており、2月からは森教授の元で留学にむけた英語の勉強をする事になっているそうです。他の2人も語学の意欲が強く各々の目標に向かって勉強を続けているそうです。

ベガルタ仙台の細川淳矢選手よりユニフォーム寄贈

本学OBでJリーグベガルタ仙台の細川淳矢選手(平成18年3月卒)が1月20日(水)に来学し、ご自身のユニフォームを大学に寄贈されました。細川選手には以前にもユニフォームを頂いており、どちらも学長室に展示してあります。

細川さんは「今シーズンはJ1の舞台で戦えるので注目度も増している。レギュラーに定着できるように頑張ります。」と今シーズンにかける想いを熱く話して下さいました。



管理栄養士国家試験対策 合宿講座を開催



真剣に講義を聴く参加者たち



シダックスからは合格へ激励の特別メニュー

仙台大学として第1回目となる合宿講座が1月10日・11日に開催にされ、運動栄養学科卒業生9名が全国から集いました。

合宿した卒業生からは「一人だけの勉強と違い、周りに人がいることでお互いに触発しあう雰囲気の中で集中して勉強に取り組めた」「（講義に対して）わかりやすい説明、得点力アップに直結する内容でとても良かった」「やる気を強くすることができた。」等々の感想が寄せられました。

夜間開放された”学習室”には深夜2時近くまで勉強に励むメンバーも。参加者同士の向学心に満ちた合宿講座となりました。

< 仙台大学管理栄養士国家試験「合格修練会」 >

仙台大学漕艇部応援団新年の集い



1月23日（土）にサンシャイン青葉を会場に「仙台大学漕艇部応援団新年の集い」が開催されました。この会には昨年、一昨年と埼玉県戸田市で開催された全日本大学選手権大会に、応援団を組織して駆けつけていただいた柴田町内に住む有志約70名が参加し、大学からも朴澤学長ら6名が参加しました。

会の中では、これまでの活動に関する説明や、柴田町にボート協会を設立する計画があることなどが報告されました。また、漕艇部や学内のクラブの活躍に期待する声が多く、町全体が大学の活動を応援してくれていることを実感しました。

なお、ボート協会設立の計画は今回の集いを機に一気に具体性を増し、3月には設立総会が開催される予定になっています。

みつお

漕艇部の西村光生さんが「日本スポーツ賞」を受賞



漕艇部の西村光生さん（体育学科2年）が、本年度の「日本スポーツ賞」を受賞しました。この賞は読売新聞社が主催して1951年から行われている権威ある賞で、1年間においてスポーツで秀でた選手あるいは団体を称えるものです。

西村さんは昨年7月にチェコで行なわれた「U23世界選手権」に日本代表として出場。軽量級舵手なしフォアで銀メダルを獲得したことが評価されクルーのメンバーである三村選手（日本大）、田中選手（早稲田）、中野選手（一橋）と共に「第59回日本スポーツ賞 競技団体別最優秀賞」を受賞しました。

柔道 田中美衣さんがマスターズ大会第3位



各階級の世界ランキング上位16名で争う「ワールドマスターズ2010」が1月16、17日に韓国のスウォンで開催され、女子63kg級ランキング7位の田中美衣さん（体育学科4年）も出場しました。

田中さんは1、2戦を一本勝ちで勝利しましたが準決勝で韓国のコングジャヨン選手に技ありを奪われ、敗退、第3位という結果でした。田中さんは大会前から今大会で優勝した世界ランキング1位の上野順恵選手（三井住友海上火災保険）との対戦を熱望していただけに、対戦が叶わず本人にとって悔やまれる結果だったようです。しかし、今大会は、国際柔道連盟（IJF）が昨年導入した世界ランキング制に伴って新設された大会で、世界選手権大会の次に格付けされている権威ある大会です。世界ランキング上位者が集う中で、表彰台に上った事は素晴らしい結果といえます。

田中美衣さんが日本学生支援機構（JASSO）顕彰授与



田中美衣さん（体育学科4年）の柔道での功績（ユニバーシアード大会団体優勝・個人準優勝、GPチユニス大会準優勝など）が認められ、日本学生支援機構（JASSO）「平成21年度優秀学生顕彰事業」の優秀賞に選考されました。1月12日（火）に朴澤学長から優秀学生顕彰・記念品・奨励金が手渡されました。

この賞は、日本学生支援機構（JASSO）が21世紀を担う前途有望な人材の育成に資することを目的として「優秀学生顕彰事業」を行い、学術・文化・芸術・スポーツ活動の4分野において、社会貢献活動で優れた業績を挙げた学生・生徒を顕彰し、奨励金を授与しています。今年度、スポーツの分野では大賞5名、優秀賞13名、奨励賞18名が選考されています。田中さんの受賞は昨年の奨励賞に続いて2度目です。

DAN DAN DANCE & SPORTS 6th



1月23日（土）に新体操競技部を中心とする実行委員会が主催するDAN DAN DANCE & SPORTS 6thがえずこホール（大河原町）で開催されました。仙南地区を中心に活動しているダンスチーム29組（298名）が日頃の練習の成果を披露しました。本学からは新体操競技部、プレイキン同好会、応援団・チアリーディングチーム、（講義）ダンス履修学生などが演技を披露しました。また、映像撮影や受付など裏方として学生スタッフ43名（ボランティア含む）やスポーツ情報マスメディア学科が多数かかわりました。140名の来場者に足を運んでいただき、盛会に終了しました。

祝 明成高バスケ部 創部5年目での全国制覇



年末に東京体育館で行われた全国高校選抜優勝大会（ウィンターカップ）において、明成高校男子バスケットボール部が創部5年目での全国制覇の偉業を成し遂げました。

ヘッドコーチを務める佐藤久夫准教授は仙台高校を全国2連覇に導いた名将。2005年に本学に着任と同時に高大連携事業の一環として立ち上げた明成男子バスケットボール部のヘッドコーチに就任し、創部2年目のウィンターカップでベスト8に入り、強豪校の仲間入りを果たしました。

福岡第一高校との決勝戦には本学園関係者をはじめ仙台市の奥山恵美子市長や、創部時に尽力された鈴木三雄前常務理事も応援に駆けつけてくださり、熱い声援を送ってくださいました。

全国制覇を祝して、1月20日（水）には江陽グランドホテルで祝勝会が開催されました。

なお、全国制覇や、県知事・市長表敬訪問の話題は各紙で掲載され、テレビ局でも大きく取り扱われました。